

平成28年度岡山県文化振興審議会議事概要

日時 平成29年2月13日(月) 14時～15時08分
場所 ルネスホール ワークルーム

1 開会

環境文化部長あいさつ

2 会長、副会長選任

会長に臼井委員、副会長に赤木委員を選任

3 議事

- ・アートプロジェクトおかやま推進事業
- ・「まちアートマネジメント講座」の開催状況
- ・県立美術館事業
- ・おかやま文化振興ビジョン成果指標実績
- ・新晴れの国おかやま生き生きプラン(案)について
- ・平成29年度文化振興課重点事業
- ・新おかやま文化振興ビジョン(仮称)策定スケジュール

事務局

- ・資料に基づき説明

委員

- ・今年度も様々なイベントを実施し、前向きな事業展開がなされていると感じている。
- ・今後、重点事業で東京オリンピックパラリンピックに向けて、文化プログラムを推進していくようだが、4年で2000件という目標はどのように考え、どのように把握していくのかを教えてほしい。

事務局

- ・国では、全国で文化プログラムを20万件という目標を設定している。20万件のうち国、民間で半分、地方で半分という考えで、地方の10万件のうち東京を除く岡山県の人口が占める割合が約2%なので、10万件の2%が2000件だ。
- ・全く新しいイベントを2000件つくるのではなく、既に実施しているイベントを「公認プログラム」、「応援プログラム」、「beyond2020プログラム」の3種類のプログラムに登録することによってカウントされることになる。

委員

- ・今あるプログラムを生かしながらということであれば、これまで文化を支えてきた人たちが認証を受けられる。

委員

- ・単なる目標数値の話に終わるのではなく、東京オリンピックに向けて県民みんなで盛り上げるということになれば良いと思う。

委員

- ・説明を聞いて岡山県はすごくよくやっていると感じた。
- ・美作三湯芸術温度はおもしろい。非常に優れたプロデューサーがこういうかたちで活躍してくれたことは素晴らしい。20万人、30万人の来場者が来るようになれば岡山は本当におもしろくなる。
- ・行政は新規事業が大好きだが、継続事業はどうか。昔のままやれとは言わないが、誰がどういうことをやってきたかは把握しておいてほしい。今までのことを残した上で新しいことをやってほしい。

委員

- ・クラシック音楽と舞踊のコラボレーションの来場者数は少なかったが、10月末は大きなイベントが重なっていた。中身がすばらしかっただけに残念だ。舞踊を知っている人が音楽を聞き、音楽を知っている人が舞踊を見てというふうに進んでいけたらと思う。

委員

- ・昨年、日本の書道をユネスコの文化遺産登録を目指すという運動があり、岡山県は、全国で2番目の署名を集めた。どういう形で広く推進運動を浸透させていくかが難しい。

委員

- ・まちアートマネジメント講座の受講生は3年間で80人で、いい意味で地域の環境づくりに貢献できたと思っている。
- ・笠岡諸島は、少子高齢化が進み、白石踊りなどの各エリアのまつりも非常に大事にされており、それゆえに、そこに生きていく人の顔と顔が見えるつながって、都会で忘れられた交流ができるような豊かな生活がある。今生きている人が文化を楽しむということで文化が継承される。
- ・新規事業もいいが、継続してやっている人の声を活用することも必要だ。新旧が常に交わる交流の場が必要だ。

委員

- ・地域の数だけ文化がある。文化や伝統芸能などはずっと昔の人たちとつながっている。

委員

- ・そういう考えを次のビジョンの中で是非取り入れてほしい。

委員

- ・クラシック音楽と舞踊のコラボレーションは、画期的だったと聞いている。
- ・県主催事業は、実施すればそれでよしという感がある。来場者数が少なかったことについては、すばらしい企画ただけに反省材料にしてほしい。

4 閉会